

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	保健体育	体育	選抜理系	2	体育科教員
教科書	現代高等保健体育体育編				
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能 ・授業内で学んだ技能を実技テストにて評価				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・技能の行い方や組合せ方について、自己や仲間と良い点や修正点を指摘し合いながら互いに新たな課題を発見しているとともに技能を表現しようとしている。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・技術練習やゲームの経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、他者と協調性を大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。課題を提示し評価する。				
考査	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点＝100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	観点① 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける ※1学期は新体力テストが加わる。				
	観点② 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける				
	観点③ 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける				
授業のねらい・進め方・注意点	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。				
図書資料の活用	必要に応じて授業で提示する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	現代高等保健体育	○オリエンテーション (新学期・実技指導・内容説明) ○新体力テスト 【グラウンド種目】 ラグビーフットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	5		【体育館種目】 バレーボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	6		【ダンス】 ・内容説明、基礎動作・振り付け指導 ※実技テストも行う。
2	7	現代高等保健体育	【柔道】 ・実技指導、内容説明、受身・寝技 ※実技テストも行う。
	9		【グラウンド種目】 サッカー ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	10		【体育館種目】 バスケットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
3	11	現代高等保健体育	【ダンス】 ・創作ダンス、振り付け指導 ※実技テストも行う。
	12		【柔道】 ・実技指導、立技 ※実技テストも行う。
3	1		
	2		
3	3		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	化学	理系選抜	6	齋藤
教科書	化学academia 実教出版				
副教材	セミナー化学基礎+化学 第一学習社				
評価基準	観点① 知識・技能 語句 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解する。 技能 実験の際に、適切に器具を使用し、実験のねらいを果たす。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 問い 単元ごとの代表的な問いについて学ぶことで、科学的な見地を手に入れる。 意見 状況に応じた理論の活用を行い、自分自身の意見を形づくる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 意欲 自分で必要だと思ったことを実施し、語句の修得のための努力を重ねる。				
	関心 修得した理論の歴史や社会的意義を、調べたり考察したりする。				
考査・評価	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
方法	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	・授業のすべてが授業者による内容の解説にならないように配慮する。 ・知識の詰め込みではなく、日常生活でも論理的思考が出来るように促す。 ・毎授業の終わりに、学習の自己調整についての考えを整理する時間をつくる。 ※授業中の教員の話は、重要なことが多いのでしっかり聞くこと。				
図書資料の活用	レポートを書く際に資料として使用。				

授業の計画

※授業の進度により変更することがあります。

学期	月	教材	内容
1	4	第2章 物質の変化と平衡	弱酸・弱塩基の平衡における復習
		4節 化学平衡	緩衝溶液、塩の加水分解、溶解度積
		第4節：構造式の決定	有機化合物の性質、構造を理解する。
		5 第5節：芳香族化合物	芳香族化合物の性質、反応を理解する。
		第5章：高分子化合物	天然高分子、合成高分子の構造、性質を理解する。
2	5	第1節：高分子化合物	
		第2節：天然高分子化合物	
		6 第3節：合成高分子化合物	
		第3章：無機物質	
		7 第1節：周期表	
3	9	第2節：非金属元素	非金属元素の反応、性質を理解する。
		第3節：金属元素	金属元素の反応、性質を理解する。
2	11	入試問題演習	
		12 入試問題演習	
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	論理国語	選抜理系	2	具志堅
教科書	『論理国語』(数研出版)				
副教材	『論理国語 準拠ワーク』(数研出版),『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500 三訂版』(いいずな書店),『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いいずな書店)				
評価基準	観点① 知識・技能 語彙力・文章構成の理解(文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方の理解) 情報の扱い方を理解する。(情報の重要度による整理、推論)				
	観点② 思考力・判断力・表現力 文章を的確に理解し、自分の考えを深め、他者に伝えられる表現力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業を聞く。与えられた課題、自分で発見した課題に取り組む。他者と協働して問題解決を図ろうとする。成果物を提出する。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	・自力で文章を正しく読解する力を養っていくことを主眼とする。 ・教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や知識を深めていく。 ・漢字は考査と同じ範囲を中テストとして実施する。継続的に学習する。				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	1環境と心の問題	論理的文章の理解
	5	中間考査(5/21~)	
	6	2「文化が違う」とは何を意味するのか？ 3「いき」の美学	
2	7	7 期末考査(7/5~) ※適宜演習を実施	論理的文章の理解
	9	4「である」ことと「する」こと	
	10	10 中間考査(10/14~) 5顔の所有	
3	11	11 6人はなぜ働かなくてはならないのか	論理的文章の理解
	12	12 期末考査(12/2~)	
		※適宜演習を実施	
3			

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学Ⅲ	選抜理系	5	黒滝
教科書	数研出版数学Ⅲ				
副教材	4STEP 数学Ⅲ、各自の大学受験用の参考書				
評価基準	観点① 知識・技能 微分、積分の計算技術をマスターし、具体的な関数に適用できる。微分の逆計算により、積分計算を実行できる。微分による増減表作成、積分による簡単な面積・体積計算などの入試の基礎となる事項を確実に理解する。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 微分は「少しずつ差を取る」、積分は「細かく切って足す」ことが本質にあることを理解する。微分と積分の基本的操作が入り乱れた問題を、自身で解答のプロセスを組み立てて解決することができる。数ⅢCの入試問題を徹底的に考え抜き、解けるようになる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 数学Ⅲは入試の得点源となる科目です。課題への取り組みに対する評価はもちろん、自ら積極的に問題にチャレンジする姿勢が重要です。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書の例・例題・練習、4STEPのAレベルの問題 50点				
	観点② 教科書の応用例題・発展・補充問題、4STEPのB・練習問題レベルの問題 50点				
	観点③ 授業への取り組み、課題(自宅学習)への取り組み 20点				
授業のねらい・進め方・注意点	・ノートを確実にとる。板書を写すだけでなく、教員の話で重要だと思ったことや、自身の思考もメモする。 ・とにかく復習に力をいれる。教科書の概念理解においては、徹底的復習により呼吸と同じレベルで計算技術を自然なものとする。入試問題においては、「自分で解けるようになるにはどうすればよいか？」を徹底的に考える。 ・入試においては再現性のある(=自然な)発想法と観察力がモノを言います。一緒に鍛えましょう。 ・数Ⅲで扱う内容は大学数学の一端中の一端です。その世界を垣間見せます。				
図書資料の活用	以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 容疑者Xの献身・東野圭吾 まず牛を球とします・柞刈湯葉				

学期	月	教材	内容
1	4		微分法 ・微分可能性、微分の計算 ・接線、極値、グラフを描く ・微分法の応用
	5		積分法 ・積分計算 →基本的な積分、部分積分、置換積分など ・面積、体積
	6		
	7		
2	9		入試問題演習（数学Ⅲ）
	10		
	11		
	12		
3			

2025年度

学年	教科	科目	単位	担当者
3	数学	数学IIIβ	5	宮山
教科書	プリント教材を使用			
副教材	プリント教材を使用			
評価基準	観点① 知識・技能 典型的な問題を速やかに処理することができる			
	観点② 思考力・判断力・表現力 複合的な問題を論理的に回答することができる			
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 出来るまで演習が全て終了している。 それ以外の自学も自立して行えている。			
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。			
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20			
テスト・評価の内訳	観点① 典型的な問題を速やかに処理することができる			
	観点② 複合的な問題を論理的に回答することができる			
	観点③ 出来るまで演習が全て終了している。			
授業のねらい・進め方・注意点	基本問題から偏差値55レベルを目指す。			
図書資料の活用	以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 博士の愛した数式・小川洋子 シュレーディンガーの少女・松崎有理			

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	プリント教材を使用	教科書程度の問題&応用問題の演習を行います。 数学Ⅰ 数学Ⅱ
	5		
	6		
2	7	プリント教材を使用	入試問題を中心に問題演習を行います。 数学Ⅰ 数学Ⅱ
	9		
	10		
3	11		
	12		

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学選択	選抜理系	2	花澤
教科書					
副教材	共通テスト対策問題集IA・IIBC				
評価基準	観点① 知識・技能 入試における基本事項（本教材の基本レベル）の定着を目標とする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 基本問題を踏まえた、共通テスト基本レベルの定着を目標とする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 週2時間の授業で全項目を扱うのは不可能なため、一部項目は予習とする。 予習した部分については提出を義務付け、その内容により評価する。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	共通テスト対策問題集を通して、入試基本・標準レベルの実力の養成およびマーク式という形式に慣れることを目指します。マーク式とはいえ、問題を解くための過程を言葉で説明できる力がなければ高得点は得られません（誘導が何をしているのか把握できないため）。したがって空欄を埋めることを目的とするのではなく、空欄を埋めるためにどのような原理・数学的事実・論理の流れを用いたのかということを常に考え記録することが重要です。 2学期以降は模試の過去問などを用いて実践的な問題を扱う予定です。				
図書資料の活用					

学期	月	教材	内容
1	4	共通テスト対策問題集IA 共通テスト対策問題集IIBC	数と式 2次関数 図形と計量 データの分析 場合の数と確率 図形の性質 方程式・式と証明 図形と方程式 三角関数 指数対数関数 微分積分 数列
	5		
	6		
2	7		ベクトル 複素平面・2次曲線
	9	模試の過去問など	実践問題演習
	10		
3	11		
	12		
3			

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学選択	選抜理系	2	黒滝
教科書					
副教材	共通テスト対策問題集IA・IIBC				
評価基準	観点① 知識・技能 入試における基本事項（本教材の基本レベル）の定着を目標とする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 基本問題を踏まえた、共通テスト基本レベルの定着を目標とする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 週2時間の授業で全項目を扱うのは不可能なため、一部項目は予習とする。 予習した部分については提出を義務付け、その内容により評価する。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	共通テスト対策問題集を利用するが、その目的は「入試基本レベルの定着」である。マーク形式の問題を扱うが、答えに到達するまでの道筋、そしてそれをきちんと記述できるようにすることを重視する。2学期中間までにIIBCの問題を扱い、最後の期間（2学期中間～2学期期末）には、模試の過去問などを用いて実践的な問題を扱う予定である。				
図書資料の活用					

学期	月	教材	内容
1	4	共通テスト対策問題集IA 共通テスト対策問題集IIBC	数と式 2次関数 図形と計量 データの分析 場合の数と確率 図形の性質
	5		
	6		方程式・式と証明 図形と方程式 三角関数 指数対数関数
2	7	模試の過去問など	
	9		指数対数関数 微分積分 数列 統計的な推測
	10		
3	11		実践問題演習
	12		
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学C	選抜理系α	3	平田
教科書	数研出版 数学C				
副教材	4step 数学IIIC				
評価基準	観点① 知識・技能 学んだ内容について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に表現・処理したりする技能を身に付け、基本的な問題を解くことができるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 観点①で身につけた力をもとに、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。そして、入試問題などの実践的な問題に対応できるようにする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返り考察を深め，創造性の基礎を養う。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・計4回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書の例・例題・練習、4STEPのAレベルの問題 50点				
	観点② 教科書の応用例題・発展・補充問題、4STEPのB・練習問題レベルの問題 50点				
	観点③ 授業への取り組み、課題(自宅学習)への取り組み 20点				
授業のねらい・進め方・注意点	2年次に学習したベクトル、複素数平面に続き、残った二次曲線を片付けます。 とにかく基礎基本を徹底し、入試問題に対応するための土台を作ります。 二次曲線終了後は、数学IIIBC入試問題基礎演習、共通テスト対策を進めます。 A4レポート用紙を準備しておくこと				
図書資料の活用	以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 数学ガール・結城浩 フェルマーの鸚鵡はしゃべらない・ドゥニ ゲジ				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		・教科書(数学C数研出版) ・スクールタクト	第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 ・放物線、楕円、双曲線 ・2次曲線と直線 第2節 媒介変数表示と極座標 ・媒介変数表示 ・極座標と極方程式 数学IIIB基本入試問題演習
2		スクールタクト	・数学IIIB基本入試問題演習 ・共通テスト対策
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学Cβ	選抜理系β	3	屋名池
教科書	プリント・問題集				
副教材	基礎確認事項としてこれまでに使用した教科書を準備してください。				
評価基準	観点① 知識・技能 基本事項を理解し、典型的な問題を速やかに処理することができる				
	観点② 思考力・判断力・表現力 入試問題など、複合的な問題を論理的に回答することができる				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 予習や課題の取り組み状況を評価対象とする				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	既習済みである数学A、数学Bを扱う予定です。基本事項の復習はもちろん、授業では扱いきれなかった問題や、入試レベルの問題にも取り組みます。 授業内で全て完結することは難しいと思われるので、受験生であるという自覚を持ち、予習→授業→復習→演習のサイクルを徹底してください。 また、問題に取り組む際には「答えが出ればよい」ではなく「解く過程」を大事にしましょう。				
図書資料の活用	以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 博士の愛した数式・小川洋子 シュレーディンガーの少女・松崎有理				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	プリント 教科書 問題集	教科書レベルを中心に数学A・Bの基本事項を扱う
	5		
	6		
2	7	プリント 必要であれば問題集または参考書の購入を薦めることがあります	入試問題など、問題演習を中心に扱う
	10		
	11		
3	12		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	English Communication III	選抜理系クラス	4	太田
教科書	FLEX III				
副教材	英語長文読解 プラクシス Level 3 大学入試問題の過去問（授業で配布する）				
評価基準	観点① 知識・技能 授業で扱った知識を覚えている、授業で扱った問題が解ける。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 授業で扱った知識を用いて類題を解くことができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 任意の課題に取り組んでいる				
考査・ 評価 方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	拾い読みではなく、精読し1文、1文の意味を正確に理解すること。 その中で、単語や文法の意味を理解すること。 また、復習においては音読を必ず行い、英語の語順で英文を読む練習も行うこと。				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	英語長文読解 プラクシス	Stage1-1～Stage1-6
	5		
	5/21～6	中間考査	Stage2-1～Stage2-6
2	7		
	7/6～	期末考査	
	9		Stage3-1～Stage3-6
3	10		
	10/16～11	中間考査	大学入試問題の過去問演習
	12		
3	12/3～	期末考査	

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	公民科	政治経済	選抜理系	2	芳野
教科書	『詳述 政治・経済』 実教出版				
副教材	○『詳述 政治・経済 演習ノート』 実教出版 ○担当者作成のテキスト・問題集				
評価基準	観点① 知識・技能 ○現実社会の諸事象を通して、国内/国際経済に関する概念や理論を理解している ○現代の諸課題解決に必要な情報を、諸資料から効果的に収集し、正確に読み取っている				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ○経済活動の活性化、またそれに伴う福祉の向上について多面的・多角的に考察し、表現している ○相互依存関係が深まる国際経済の特質と、その中で果たす日本の役割について多面的・多角的に考察し、表現している				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ○講義受講者どうしの対話によって、自分の考えなどを広げたり深めている ○情報手段の活用により、自分自身で課題の追求や解決の見通しをもっている				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① ○経済の基本概念を正確に把握・理解し、それを記述できる ○課題解決の糸口となる資料を正確に収集・分析できる				
	観点② ○経済の特質について理解したうえで、諸課題解決の方策を考察できる ○考察内容を他者と議論し、その妥当性や実現可能性を判断できる				
	観点③ ○自身の考察を他者に伝え、他者との議論を通じてより深い考察ができる ○諸課題解決のプロセスを通じて自ら新たな課題を発見し、その課題解決に取り組むことができる				
授業のねらい・進め方・注意点	授業のねらい：現代国内/国際経済のしくみを理解し、主体的に諸課題の解決に取り組むための基礎的な能力を身に付ける 授業の進め方：担当者作成のテキストを使用した講義を基本とし、学習した内容を活用できるようなワークを実施予定です。初回授業・授業中の指示に従ってください。 注意点：授業という与えられたことをこなすだけでなく、よりよい社会の形成のために自分はどう行動すべきか考えてください。				
図書資料の活用	○『朝日中高生新聞 まとめてわかる！ニュース1週間』をはじめ、複数の新聞社による記事の参照 ○授業内容に合わせ、適宜書籍や映画を紹介します				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	○教科書	第2編 現代日本の経済 第1章 経済社会の変容 1 経済活動の意義 第2章 現代経済のしくみ 1 市場機構 2 現代の企業 3 国民所得と経済成長 4 金融のしくみ 5 財政のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上 1 経済の停滞と再生
	5	○副教材	
	6		
2	7		第3章 現代経済と福祉の向上 1 経済の停滞と再生 第3章 現代経済と福祉の向上 5 労使関係と労働条件の改善 6 社会保障の役割 第2章 現代の国際経済 1 商品・資本の流れと国際収支 2 国際経済体制の変化 3 グローバル化と世界金融 4 地域経済統合と新興国の台頭 5 地球環境とエネルギー
	9	○教科書	
	10	○副教材	
	11		
	12		
※大学入学共通テスト・私立大学の「公共」・「政治経済」受験予定者は、申し出てください。			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	外国語	英語演習I	選抜理系	2	久保田 祐正
教科書	Clues to Reading 英文解釈の徹底演習 Standard (数研出版)				
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能 ＊テキストの英文で、構文解釈、和訳ができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ＊初見の英文で、構文解釈、和訳ができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ＊授業内外で課す課題に取り組んでいる。(この項目は出来不出来ではなく、取り組みを評価する)				
テスト・評価方法	授業内テストで、1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末を実施 上記テストは全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	英文和訳メインの、読解1技能ベッタリの授業となります。なぜ今時こんな授業があるかというと、4技能重視の時代の中で、英文法に基づく正確な解釈をする機会が、今の高校生にはほばないからです。しかし私たちが外国語として、ましてや日本語とは全く言語構造が異なる英語を正確に習得するには、実は「古い」と言われる英文解釈、訳読も、上位大学の英語読解や資格試験の高得点に至る過程では必要なのです。 一方で、12月までしかない2単位の授業内で全ての演習をこなすことは不可能です。授業外学習課題もそれなりに課していきます。量的に苦しいかもしれませんが、上の段落の通り、正確さが生命線になります。決して「わからない」を放置せず、一文ずつ、確実に取り組んでください。				
図書資料の活用	特になし				

授業の計画

テスト範囲は都度指示します。

学期	月	教材	内容																																																								
1		<table border="1"> <thead> <tr> <th>課</th> <th>レッスントイトル</th> <th>Clue No</th> <th>Clue タイトル</th> <th>ページ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">①</td> <td rowspan="2">名詞(句)を説明するカタマリを見ぬく</td> <td>clue 1</td> <td>名詞(句)を後ろから説明する分詞句を見ぬこう！</td> <td rowspan="2">4</td> </tr> <tr> <td>clue 2</td> <td>名詞(句)を後ろから説明する節(S+V)を見ぬこう！</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">②</td> <td rowspan="2">基本構造を見ぬく</td> <td>clue 3</td> <td>目的語のカタマリに注意して、文構造を見ぬこう！</td> <td rowspan="2">6</td> </tr> <tr> <td>clue 4</td> <td>前置詞のあとに、名詞(句・節)がくる！</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③</td> <td rowspan="2">挿入を見ぬく</td> <td>clue 5</td> <td>接続詞 that の直後の副詞句[節]の挿入を見ぬこう！</td> <td rowspan="2">8</td> </tr> <tr> <td>clue 6</td> <td>主語の直後に続く〈S+V〉の挿入を見ぬこう！</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">④</td> <td rowspan="2">同格の関係を見ぬく</td> <td>clue 7</td> <td>名詞(句)と名詞(句)が連続する場合は、「同格の関係」を考えよう！</td> <td rowspan="2">10</td> </tr> <tr> <td>clue 8</td> <td>名詞(句)と that-節(=名詞節)が連続する場合は、「同格の関係」を考えよう！</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">⑤</td> <td rowspan="2">並列関係を見ぬく</td> <td>clue 9</td> <td>and / but / or は、「同じ働きをする」語(句)と語(句)をつなぐ！</td> <td rowspan="2">12</td> </tr> <tr> <td>clue 10</td> <td>and / but / or は、「同じ働きをする」節と節をつなぐ！</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">⑥</td> <td rowspan="2">it の用法を見ぬく(1)</td> <td>clue 11</td> <td>あとから現れる句や節をさす形式主語の it を見ぬこう！</td> <td rowspan="2">14</td> </tr> <tr> <td>clue 12</td> <td>あとから現れる句や節をさす形式目的語の it を見ぬこう！</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">⑦</td> <td rowspan="2">it の用法を見ぬく(2)</td> <td>clue 13</td> <td>〈It is [was] + 名詞(句) + that + 不完全な文〉は強調構文の可能性！</td> <td rowspan="2">16</td> </tr> <tr> <td>clue 14</td> <td>〈It is [was] + 副詞(句・節) + that + 完全な文〉は強調構文！</td> </tr> </tbody> </table>	課	レッスントイトル	Clue No	Clue タイトル	ページ	①	名詞(句)を説明するカタマリを見ぬく	clue 1	名詞(句)を後ろから説明する分詞句を見ぬこう！	4	clue 2	名詞(句)を後ろから説明する節(S+V)を見ぬこう！	②	基本構造を見ぬく	clue 3	目的語のカタマリに注意して、文構造を見ぬこう！	6	clue 4	前置詞のあとに、名詞(句・節)がくる！	③	挿入を見ぬく	clue 5	接続詞 that の直後の副詞句[節]の挿入を見ぬこう！	8	clue 6	主語の直後に続く〈S+V〉の挿入を見ぬこう！	④	同格の関係を見ぬく	clue 7	名詞(句)と名詞(句)が連続する場合は、「同格の関係」を考えよう！	10	clue 8	名詞(句)と that-節(=名詞節)が連続する場合は、「同格の関係」を考えよう！	⑤	並列関係を見ぬく	clue 9	and / but / or は、「同じ働きをする」語(句)と語(句)をつなぐ！	12	clue 10	and / but / or は、「同じ働きをする」節と節をつなぐ！	⑥	it の用法を見ぬく(1)	clue 11	あとから現れる句や節をさす形式主語の it を見ぬこう！	14	clue 12	あとから現れる句や節をさす形式目的語の it を見ぬこう！	⑦	it の用法を見ぬく(2)	clue 13	〈It is [was] + 名詞(句) + that + 不完全な文〉は強調構文の可能性！	16	clue 14	〈It is [was] + 副詞(句・節) + that + 完全な文〉は強調構文！			
	課	レッスントイトル	Clue No	Clue タイトル	ページ																																																						
	①	名詞(句)を説明するカタマリを見ぬく	clue 1	名詞(句)を後ろから説明する分詞句を見ぬこう！	4																																																						
			clue 2	名詞(句)を後ろから説明する節(S+V)を見ぬこう！																																																							
	②	基本構造を見ぬく	clue 3	目的語のカタマリに注意して、文構造を見ぬこう！	6																																																						
			clue 4	前置詞のあとに、名詞(句・節)がくる！																																																							
	③	挿入を見ぬく	clue 5	接続詞 that の直後の副詞句[節]の挿入を見ぬこう！	8																																																						
			clue 6	主語の直後に続く〈S+V〉の挿入を見ぬこう！																																																							
	④	同格の関係を見ぬく	clue 7	名詞(句)と名詞(句)が連続する場合は、「同格の関係」を考えよう！	10																																																						
			clue 8	名詞(句)と that-節(=名詞節)が連続する場合は、「同格の関係」を考えよう！																																																							
	⑤	並列関係を見ぬく	clue 9	and / but / or は、「同じ働きをする」語(句)と語(句)をつなぐ！	12																																																						
			clue 10	and / but / or は、「同じ働きをする」節と節をつなぐ！																																																							
	⑥	it の用法を見ぬく(1)	clue 11	あとから現れる句や節をさす形式主語の it を見ぬこう！	14																																																						
			clue 12	あとから現れる句や節をさす形式目的語の it を見ぬこう！																																																							
⑦	it の用法を見ぬく(2)	clue 13	〈It is [was] + 名詞(句) + that + 不完全な文〉は強調構文の可能性！	16																																																							
		clue 14	〈It is [was] + 副詞(句・節) + that + 完全な文〉は強調構文！																																																								
2		<table border="1"> <tbody> <tr> <td rowspan="2">⑧</td> <td rowspan="2">関係代名詞の用法を見ぬく(1)</td> <td>clue 15</td> <td>〈名詞＋前置詞＋関係代名詞〉で1つのカタマリをつくることもある！</td> <td rowspan="2">18</td> </tr> <tr> <td>clue 16</td> <td>〈先行詞＋前置詞＋関係代名詞〉を副詞的に訳すと、自然な場合がある！</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">⑨</td> <td rowspan="2">関係代名詞の用法を見ぬく(2)</td> <td>clue 17</td> <td>関係代名詞の直前にある名詞(句)が先行詞とはかぎらない！</td> <td rowspan="2">20</td> </tr> <tr> <td>clue 18</td> <td>関係代名詞や疑問詞(+～)の直後の I think などは、挿入と考えよう！</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">⑩</td> <td rowspan="2">分詞構文を見ぬく</td> <td>clue 19</td> <td>文頭・文末などに置かれた分詞構文を見ぬこう！</td> <td rowspan="2">22</td> </tr> <tr> <td>clue 20</td> <td>前に with のついた独立分詞構文を見ぬこう！</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">⑪</td> <td rowspan="2">比較を見ぬく</td> <td>clue 21</td> <td>than のあとの倒置は、「主語と主語」の比較！</td> <td rowspan="2">24</td> </tr> <tr> <td>clue 22</td> <td>文末に置かれない比較対象(than ...)に注意しよう！</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">⑫</td> <td rowspan="2">省略を見ぬく</td> <td>clue 23</td> <td>省略表現は、前文や文の前半から「元の形」を考えよう！</td> <td rowspan="2">26</td> </tr> <tr> <td>clue 24</td> <td>比較対象(than ... や as ...)の省略に注意しよう！</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">⑬</td> <td rowspan="2">倒置を見ぬく</td> <td>clue 25</td> <td>副詞句 / C のあとに〈V+S〉が続けば、〈S+V+副詞句 / C〉の倒置形！</td> <td rowspan="2">28</td> </tr> <tr> <td>clue 26</td> <td>否定を表す副詞(句)のあとに続く文は、「疑問文と同じ語順」の倒置形！</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">⑭</td> <td rowspan="2">名詞構文を見ぬく</td> <td>clue 27</td> <td>動詞の名詞形は、元の動詞に戻して考えてみよう！</td> <td rowspan="2">30</td> </tr> <tr> <td>clue 28</td> <td>形容詞の名詞形は、元の形容詞に戻して考えてみよう！</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">⑮</td> <td rowspan="2">仮定法を見ぬく</td> <td>clue 29</td> <td>仮定法の文中に倒置形がある場合は、if の省略を考えよう！</td> <td rowspan="2">32</td> </tr> <tr> <td>clue 30</td> <td>if-節のない仮定法を見ぬこう！</td> </tr> </tbody> </table>	⑧	関係代名詞の用法を見ぬく(1)	clue 15	〈名詞＋前置詞＋関係代名詞〉で1つのカタマリをつくることもある！	18	clue 16	〈先行詞＋前置詞＋関係代名詞〉を副詞的に訳すと、自然な場合がある！	⑨	関係代名詞の用法を見ぬく(2)	clue 17	関係代名詞の直前にある名詞(句)が先行詞とはかぎらない！	20	clue 18	関係代名詞や疑問詞(+～)の直後の I think などは、挿入と考えよう！	⑩	分詞構文を見ぬく	clue 19	文頭・文末などに置かれた分詞構文を見ぬこう！	22	clue 20	前に with のついた独立分詞構文を見ぬこう！	⑪	比較を見ぬく	clue 21	than のあとの倒置は、「主語と主語」の比較！	24	clue 22	文末に置かれない比較対象(than ...)に注意しよう！	⑫	省略を見ぬく	clue 23	省略表現は、前文や文の前半から「元の形」を考えよう！	26	clue 24	比較対象(than ... や as ...)の省略に注意しよう！	⑬	倒置を見ぬく	clue 25	副詞句 / C のあとに〈V+S〉が続けば、〈S+V+副詞句 / C〉の倒置形！	28	clue 26	否定を表す副詞(句)のあとに続く文は、「疑問文と同じ語順」の倒置形！	⑭	名詞構文を見ぬく	clue 27	動詞の名詞形は、元の動詞に戻して考えてみよう！	30	clue 28	形容詞の名詞形は、元の形容詞に戻して考えてみよう！	⑮	仮定法を見ぬく	clue 29	仮定法の文中に倒置形がある場合は、if の省略を考えよう！	32	clue 30	if-節のない仮定法を見ぬこう！	
	⑧	関係代名詞の用法を見ぬく(1)			clue 15	〈名詞＋前置詞＋関係代名詞〉で1つのカタマリをつくることもある！		18																																																			
			clue 16	〈先行詞＋前置詞＋関係代名詞〉を副詞的に訳すと、自然な場合がある！																																																							
	⑨	関係代名詞の用法を見ぬく(2)	clue 17	関係代名詞の直前にある名詞(句)が先行詞とはかぎらない！	20																																																						
			clue 18	関係代名詞や疑問詞(+～)の直後の I think などは、挿入と考えよう！																																																							
	⑩	分詞構文を見ぬく	clue 19	文頭・文末などに置かれた分詞構文を見ぬこう！	22																																																						
			clue 20	前に with のついた独立分詞構文を見ぬこう！																																																							
	⑪	比較を見ぬく	clue 21	than のあとの倒置は、「主語と主語」の比較！	24																																																						
			clue 22	文末に置かれない比較対象(than ...)に注意しよう！																																																							
	⑫	省略を見ぬく	clue 23	省略表現は、前文や文の前半から「元の形」を考えよう！	26																																																						
			clue 24	比較対象(than ... や as ...)の省略に注意しよう！																																																							
	⑬	倒置を見ぬく	clue 25	副詞句 / C のあとに〈V+S〉が続けば、〈S+V+副詞句 / C〉の倒置形！	28																																																						
			clue 26	否定を表す副詞(句)のあとに続く文は、「疑問文と同じ語順」の倒置形！																																																							
	⑭	名詞構文を見ぬく	clue 27	動詞の名詞形は、元の動詞に戻して考えてみよう！	30																																																						
			clue 28	形容詞の名詞形は、元の形容詞に戻して考えてみよう！																																																							
⑮	仮定法を見ぬく	clue 29	仮定法の文中に倒置形がある場合は、if の省略を考えよう！	32																																																							
		clue 30	if-節のない仮定法を見ぬこう！																																																								

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	物理・理科選択Ⅱ	選抜理系	4＋2	有田
教科書	物理基礎（物基703）実教出版 物理（物理702）実教出版				
副教材	セミナー物理基礎＋物理（新課程版） 第一学習社				
評価基準	観点① 知識・技能 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解できる。 公式を使って、基本的な問題を解き、物理量を求めることができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 実験等によって得られた情報を整理・分析し、法則性や関係する物理量を求めることができる。また、得られた知識を使って応用的な課題を解決できる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業や課題に真剣に取り組む、知識や思考力等の成長のために努力できる。 また、学習した内容と日常生活との関わりなどについて調べたり考えることができる。				
考査・評価	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施				
方法	上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	物理を選択した人は、基本的には大学受験科目として物理を選択するであろうということを前提として、大学進学に向けて必要な最低限度の知識と技法を身につけることを目標として授業を行います。ただし、ただ問題の解法を教える授業ではありません。物理は一見たくさんの内容が詰まっているように感じられますが、それらは実は非常に少ないいくつかの原理の組み合わせから成っています。そのような物理の「本質」を発見させる授業を心がけます。そのために実験や演示を行いますので、それを通じて、「なぜ」と考えながら授業を受けて下さい。				
図書資料の活用	学期ごとのレポートや各自で入試の過去問に取り組む際に、図書室を活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	物理基礎4章1節 電流	静電気と電流
			オームの法則、電気とエネルギー
		物理3章1節 電荷と電場	電場中の導体
			コンデンサー
	5	物理3章2節 電流	電気回路と直流回路
		物理1章3節	等速円運動
	6	円運動と単振動	慣性力と単振動
2		物理1章4節万有引力	ケプラーの法則と万有引力
	7	物理1章5節	気体分子の運動と状態方程式
		気体分子の運動	気体の内部エネルギーと状態変化
	9	物理3章3節 磁場と電流	磁場、電流の作る磁場
			電流が磁場から受ける力
			ローレンツ力
		物理3章4節 電磁誘導と電磁波	電磁誘導の法則
2		物理基礎4章2節	自己誘導と相互誘導,電気振動と共振
		電気の利用	交流
	10	物理4章1節 電子と光	電磁波
			電子
			光の粒子性と電子の波動性
		物理4章2節 原子と原子核	原子の構造
			原子核と原子核反応
2			素粒子
	11	セミナー物理基礎＋物理	入試過去問題の研究
	12	入試過去問題	

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	生物	選抜理系	6	岡田
教科書	「生物」第一学習社				
副教材	「スクエア最新図説生物」第一学習社				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書および図説の内容の十分な理解を目指す。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 内容の理解を目指す過程で、教科書以外の資料を多く取り入れる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 学習内容に関する課題図書のサマリーを作成する。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 用語の意味を問うような、単純な知識問題が大部分となる。				
	観点② 文脈を正しく読み解く必要があるような、考察を要する問題が大部分となる。				
	観点③ サマリーの内容を元に判断する。				
授業のねらい・進め方・注意点	学習者...学習項目の理解にどれほど自分自身の思考を巡らせたか？に注目する。 授業者...学習者の思考がより深いものになるように注力する。				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 図説	①4月～5月中旬は「第3章細胞と分子」「第4章代謝」について学習する。5月下旬～6月は「第5章遺伝情報とその発現」「第6章遺伝子の発現調節と発生」について学習する。 ②授業者は、教科書や図説を用いて、ハイスピードで学習項目を確認したのち、問題演習を行う。 ③学習者は、主に家庭学習にて、個々の学習目標に応じて内容の深い理解に注力する。
	5		
	6		
2	7	教科書 図説	①9月～10月中旬は「第7章遺伝子を扱う技術とその応用」「第8章動物の反応と行動」について学習する。10月下旬～11月は「第9章植物の成長と環境応答」「第10章生態系のしくみと人間の関り」について学習する。 ②授業者は、教科書や図説を用いて、ハイスピードで学習項目を確認したのち、問題演習を行う。 ③学習者は、主に家庭学習にて、個々の学習目標に応じて内容の深い理解に注力する。
	9		
	10		
3	11	教科書 図説	
	12		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	論理・表現III	選抜文・理	4	山崎・石井
教科書	FACT BOOK English Logic and Expression III				
副教材	PLUS 英語頻出問題 共通テスト10分リスニングプレノート				
評価基準	観点① 知識・技能 文法知識を習得し、客観式問題に回答することができる				
	観点② 思考力・判断力・表現力 習得した文法知識を応用し、初見の問題に回答することができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業時のペアワークや小テスト、提出物の取り組みで評価する。				
考査・ 評価 方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	大学入試問題に取り組み、英語運用能力を養う。この授業では4技能のうち主にWritingとListening分野に重点を置く。適宜小テストやペアワークを行う。				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	PLUS	Sect.1~2
	5	リスニングプレノート	6回分
		中間考査	
	6	PLUS	Sect.4~6
	7	リスニングプレノート	6回分
		期末考査	
2	9	PLUS	Sect.7~9
	10	リスニングプレノート	6回分
		中間考査	
	11	PLUS	Sect.10~12
	12	リスニングプレノート	6回分
3			

3年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	3年次では、以下を重視して実施。 2年次からの個人探究を引き続き行い、深め論文にし、発表する。 進路探究を通じて自分を理解する。 一学期 志望理由書の作成、個人探究の継続 二学期① 論文にしたものを踏まえスライドにする 二学期② 全員発表する
教材 教具	iPad（Classroomの連絡が確認できる端末） マイナビテキスト「探究の進め方」 昨年度から使用している探究ノート その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。
一学期	志望理由書を作成し、進路探究をする。個人探究を継続する 授業の流れ（概要） 1. 志望先学校について深く知る 2. 志望理由書の書き方を学ぶ 3. 志望理由書を書き、添削を受ける 4. 2年3月の発表をさらに発展させるよう個人探究を継続する 5. 論文の書き方を学ぶ 6. 論文を作成する
夏休み	スライドの作成
二学期	前半 スライドを作成し、周囲からアドバイスを受ける 後半 スライドを用いて発表する 授業の流れ（概要） 1. 夏休みの計画したようにスライドを作成する 2. スライドをも用いて発表する 3. 発表について評価を受け、改善する 4. 他学年に代表者が発表する

三学期	
-----	--

注意	
基本	・中間発表での反省を生かし、個人探究のテーマ・内容を深める ・探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。 ・大学進学後に必要となる論文作成やプレゼンを経験する ・ルーブリックを意識した行動を心がける。 ・調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識した成果物を作成する。

グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？	
個人での探究の機会が増えるが、発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。 ①クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。 ②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って+αのアイデアを出す。 ④グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。 ⑤会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を補う。 ⑥予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行する。 ⑦予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。	
注意事項	評価指標
個々の発言量・機会を均等にする。 人の意見に乗ってばかり...はやめる。 人に指示してやらせてばかり...はやめる。 会話の流れを記録し、遡れるようにする。	協働的に学ぶ意義は「物事を多面的に視る」という点である。様々な側面からの情報や異論などを集め、整理できれば、よいチームだと評価される。